# 会　議　録

1　会議名

令和６年度　第９回高田区地域協議会

2　議題（公開・非公開の別）

自主的な審議（公開）

（１）ＬＥＤ防犯灯の設置・補修を公費で行うことについて

（２）中高生の居場所づくりについて

（３）自主的な審議のテーマについて

3　開催日時

令和７年１月２０日（月）午後６時３０分から午後８時１０分まで

4　開催場所

高田城址公園オーレンプラザ　研修室・会議室

5　傍聴人の数

１人

6　非公開の理由

―

7　出席した者（傍聴人を除く）

・委　員：澁市会長、栗田副会長、廣川副会長
飯塚委員、上原委員、佐藤委員、柴田委員、杉本委員、冨田委員、
町委員、宮﨑委員、村田委員、茂原委員、山﨑委員、山岸委員、
吉田委員、渡部委員（欠席３人）

・事務局：南部まちづくりセンター　大島所長、小池副所長、石黒係長

8　発言の内容

【石黒係長】

・北川委員、下村委員、淀野委員を除く１７人の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第８条第２項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

・同条例第８条第１項の規定により、議長は会長が務めることを報告

【澁市会長】

・会議の開会を宣言

・会議録の確認：廣川副会長、宮﨑委員に依頼

会議を始める前に、議事運営に関することについて報告させていただく。１月１５日の新潟日報上越版に上越市の合併を特集した記事があり、その中で高田区地域協議会について取り上げられていた。記事の最後には、高田区の委員と思われる二つの意見が載っていた。一つ目は、協議会の会議の内容について、長時間自分の意見を述べる委員がいて話しにくい。二つ目は、司会を務める会長が特定の委員を冷遇するかのような態度をとり、途中で退席する委員もいた。会議に来なくなる委員もいると掲載されていた。私はその会議の司会をしていた者として、非常に素直な意見をありがたく思う。これからはこれらの点も考慮しながら公平で円滑な会議の運営に努めたいので、皆さんの協力をお願いする。

ここで、会議を円滑に効率的に進めるために皆さんに特にお願いしたいことがある。まず、人の意見をきちんと聞く、人の発言を注意深く聞いてください。二つ目として、自分が発言する時は、同じことを繰り返し言わないでください。三つ目として、前の人が取り上げた質問と同じ質問をしないでください。四つ目として、発言を簡潔にお願いします。これは基本的なことです。皆さんの協力を得て円滑な議事進行に努めたいと考えております。以上、私からの報告です。

― 次第２　自主的な審議（１）ＬＥＤ防犯灯の設置・補修を公費で行うことについて ―

【澁市会長】

次第２　自主的な審議（１）ＬＥＤ防犯灯の設置・補修を公費で行うことについてに入る。

当日配布資料№.１が意見書の案で、これは非常に複雑な問題なので説明しないとなかなか前に進まないと思うので、当日配布資料№.２を用意した。私から説明したい。

【栗田副会長】

既に意見書の案まで配布されたが、自主的な審議としてどういう審議過程を踏ん

でこの意見書まで来たのか。

【澁市会長】

前回の協議会で、次は意見書の案をまとめるということを説明したかと思う。基本は、町内会がこれからＬＥＤを交換しなくてはならず相当な経費がかかるということで、町内会にとって非常に大きな負担となるという問題が提起され、それを審議しようということになって、それほど中身を揉む必要はないと思った。今の質問についての答えが当日配布資料№.２にあるので、それを皆さんで話し合ってから前に戻ってもよいと思うがいかがか。

【栗田副会長】

説明資料や意見書の案について問題だと言っているのではなくて、この協議会で協議をどうやってやったのか思い出せない。この意見書案も最初から澁市会長のおっしゃっていることそのものであって、どこかに委員の意見が反映されたとか、何か修正が加わったという感覚があまりない。どういう審議でここまできたか確認したい。

【澁市会長】

私の案というのは、正式な案としては今まで出していない。しかし、考え方というのは確かに協議会に提出して、皆さんの話し合いの資料としたと思う。今日意見書の案を議論するが、意見書の案を議論するということ自体が、もう既に協議会での話し合いの一部になっていると思う。協議会で何回審議しなくてはいけないという規定はないので、まずは、私がまとめた資料について説明して、それで話し合うのがよいのではないかと思う。

栗田副会長の意見を含めて、ほかに意見や質問はないか。

（意見なし）

・当日配布資料№.２の１～３、資料№.１により説明

ここまでで、質問、意見はあるか。

【冨田委員】

金額だけで議論しているが、市としては省エネということを呼びかけている。どのくらい省エネになるのか。

【澁市会長】

市に資料を求めたがないという。我々が計算するのは非常に難しい。ただ、蛍光灯の場合、光の量が２０ワットだとその電力消費量は４０ワットだそうだが、それをＬＥＤに変えるとＬＥＤの光出力は２０ワットで電力消費量は６から８ワットくらい、電力消費量は８分の１になるという。ただし、東北電力の公衆街路灯の料金体系は少々複雑で、２０ワットの蛍光灯をＬＥＤに変えると電力消費量は８分の１だが、電気料金は２分の１という形になっている。電力の使用量がどれだけ減ったのかはわかりかねるが、電力消費量は確かに減った。どうして減ったかというと、市の補助金よりも、町内会の負担が倍だったということは重要なことである。わかるか。

【冨田委員】

それはそれでいい。その金額はわかった。もう一つ、意見書として出すには、市が省エネに取り組んでいる中で、これがどのくらいの割合になるか調べて、それも提案してたら結構強みになるのではないかということを言いたい。

【澁市会長】

おっしゃるとおりだと思うが、データがないので定性的なことしか言えない。

・当日配布資料№.２の４説明

ここまでで、質問、意見はあるか。

【栗田副会長】

補助金の制度だから、金額を補助してもらったということのほうが重要なことであって、その倍の負担を町内会がしたことについて議論しなくてはいけない理由はあるか。

さらに、１０年経ったと言っているが、この１０年経つ前に先ほどの話だと２，０００灯は町内会が自分たちで負担して設置している。それらの交換時期はもう過ぎているが、それについては今回の意見書の中ではどのように扱うのか。

【澁市会長】

二つ目の質問について、町内会が管理しているＬＥＤ灯についても市は電気料金を支出することを認めている。電気料金を支出することについて、町内会は申請書を出して市に認めてもらって電気料金を負担してもらう対象になる。市が認めたということは、公共施設の一部であるということで電気料金を払っていると思う。これから交換が必要になるものについては、当然、市に補助金を出していただきたいと意見

書として提出したい。

もう一つの平成２６年度で２，０００灯まであったというが、それがもう既に廃棄されている、駄目になっているのではないかということなのか。ただ理系の次元から言うと、物の物理的耐用年数というのは、使い方、気象条件、いろいろな条件によって、一概に１０年といっても短いと８年であったり、長いと１２年くらい持つものがある。きっちり１０年で取替ではないということなので、平成２６年度末にＬＥＤ防犯灯が２，０００灯あったといっても、そのすべてを今変える必要はない。わかるか。家庭用の蛍光灯は、耐用年数がどのくらいか知らないが、例えば一つの部屋に三つ同時に設置したとしても、それが一斉に駄目になるということはないと思う。条件とか製造時点のいろいろコンディションがあって、物理的耐用年数より早く駄目になるものもあるし、２、３年長く使えるものもある。

【杉本委員】

補助制度の中身の認識が少し違っているのではないか。蛍光灯の防犯灯をＬＥＤの防犯灯に交換することについてだけを対象とした補助制度だったと思う。新たにＬＥＤの防犯灯を設置する場合には対象にはならなかったはずで、そこは区別しておかないといけないのではないか。

ＬＥＤの防犯灯が劣化している、交換しなければならない状態になったものについて費用を負担していただきたいという主張にしなくてはいけないし、新たにＬＥＤ防犯灯を設置する、交換ではなくて新しく設置する場合にも補助制度が必要だというのも入れておかないとうまくないと思う。

【澁市会長】

確かにおっしゃるとおりで、補助制度の目的として町内会が管理する防犯灯のＬＥＤ化を促進することにより、消費電力の削減云々とあったと思う。補助対象はＬＥＤ以外の防犯灯をＬＥＤ灯に交換する工事とするとはっきり書いてあるので、蛍光灯とか、当時は白熱灯はなかったかもしれないが、そういうものをＬＥＤ灯に交換する場合が対象である。新規にＬＥＤ灯をつけるというのは、おっしゃるとおり対象にならない。ただ、意見書にその辺を細かく書くと非常に複雑になるので、設置・交換に要する費用ということで単に設置・交換としたらよいのではないか。電柱を建てない限り工事費用は同じである。新しくＬＥＤ灯をつける場合と、既存のＬＥＤ灯

の取替費用は、上越市の電気工事業組合の協定料金では３万円だそうだ。金額は同じなので、意見書の表題、あるいは、中身において設置・交換として十分ではないかと思っている。

市の補助金が１億円でそれに対比する形で町内会が２．２億円というのを強調する必要はないのではないかと栗田副会長がおっしゃったが、私は事実を書いただけである。町内会の負担が非常に大きかったということを言っただけである。後の方で出てくるが、長野市とか長岡市とか、あるいは、新潟市、柏崎市は３分の１ではない。最低でも５０パーセント。もちろん上限はあるがＬＥＤ化するのに費用の５０パーセントを補助している。上越市はほかの市に比べてそれほど補助率が高いわけではない。むしろ、３３パーセントというのは私が調べた中で一番低い。

それでは次に行く。

・当日配布資料№.２の５説明

ここまでが上越市の現況と高田区の現状である。こういう状況で、もう既に町内会は十分なお金を払った。防犯灯は、歴史的に町内会が作って市がその電気料を負担し、ＬＥＤ化する時には市が補助金を出したということで、一応町内会が管理するという形になっているが、ＬＥＤ灯は一般の公道を照らしている。そこを通る人から料金を取れない。通ってはいけないと言っているわけではないことから、一般的に経済学では公共財という。公共施設であるということで、本来ならば、設置、交換、電気料金すべては公費で賄われるべきだと思うが、今までの経緯があるので、少なくとも新しく設置する、あるいは、今までのＬＥＤ灯の耐用年数が来たので新しいものに交換する費用の相当額を市が、あるいは、県でも国でもよいが補助するというのが当たり前だと思う。それを意見書としてまとめた。

・当日配布資料№.２の６～８説明

これが私が調べた事実に基づいて考えた内容である。

全体について質問や意見を伺いたい。

【栗田副会長】

５の高田区の状況だが、この中に取替費用が７，０００万円以上と見積もられるという数字の根拠がよくわからないのと、その次の２．２億円というのが結びつくか。何か違うものを持ってきていないか。その辺はいかがか。

【澁市会長】

先ほど申し上げたように、今ＬＥＤ灯１灯を交換する、あるいは、新しく設置するとなると工事費用を含めて工事業者に払う費用は３万円である。それに２，２５４灯を乗じた。さらに、補助事業で設置されなかったもの、これは２，２５４灯に入っていないので、市がその資料を出してくれないのでどのくらいあるかわからないが、それを含めれば、おそらく最低でも７，０００万円以上というふうに見積もられる。これがこれからの費用の話である。２．２億円というのは前に説明したように、市が市の負担する電気料金を減らすため、あるいは、環境への負荷を減らすためという名目でＬＥＤ化を進め、費用の３分の１は市が補助した。残り３分の２は町内会に持たせた。町内会は手を挙げたところが負担したのだが、事実として市が負担したのが１億８００万円くらいである。その倍の２．２億円を町内会が負担したという事実を述べただけである。

【栗田副会長】

高田区として２．２億円というわけではないと思うが。

【澁市会長】

高田区の町内会がどれだけ負担したかというのは計算すればわかるが、推計になってしまうので計算していない。市から８年間でどれだけの補助金を出したという資料が提供され、その額が全部で１億８６６万４，０００円である。これは３分の１の補助だから、残り３分の２、カウンターパートファンドは町内会が出して、最低でもこれの倍である。事実を言っただけである。

【冨田委員】

今までの流れを確認したいのだが、防犯灯をＬＥＤに変える際に８年間にわたって市が３割から４割の補助金を出して、６割から７割を町内会が出した。それを第１期と考えれば、今度は杉本委員の提案は１期が終わって、１０年間使ったＬＥＤがそろそろ寿命だから取替時期ではないかと。その費用について提案しているという理解である。前回の意見書は、全部を全部、普通の照明からＬＥＤに変えるという視点で、その後については議論していなかったということで今議論しているという位置付けでよいか。

【澁市会長】

市のＬＥＤ化促進補助というのは令和４年度で終わっている。だから、令和４年から５年に町内会のＬＥＤ灯が２万９１８灯から２万１，０５７灯と、１００以上増えているが、これは関係の町内会が全額負担したということになる。だから、補助制度の開始から１０年経って交換時期なのだから、その費用をお願いしますよということを市に意見書として提出するということである。市から提供された補助金の資料を基に町内会の負担額はどうかというのはすぐ推計できる。倍負担したということで、私は町内会に直接関与していないが、関与している委員はよくわかると思うが、大変な負担だったと思う。

【杉本委員】

実際大変な額である。ただ、１度にではなく、何年かにわたってパラパラ出ていたので少しは緩和されたが、現実にはやはり大変である。大きな町内になればなるほど多く取り替えたわけだから負担額はかなりだと思う。

もう一つ、皆さんに知っておいてもらいたいのは、新潟県は町内会が非常に特殊で、９０％以上１００パーセントに近い住民が加入している。長野県もそうだと思うが、ほかの都道府県はそんなに加入している町内会というのは珍しく、自治会というふうになっていて自由意思で加入するようになっている。だから、町内会が負担するというと、何で俺たちは町内会に入っていない人の分まで道を照らしてやらなくてはいけないのだというような議論が出てきたりして大変なことがある。もともと澁市会長が言うように公共財のわけだから、公共財は行政で整備するのが当たり前だろうというのが一般的になっている。ところが、新潟県はほとんどの人が町内会に入っているから、町内会が負担しても今まではあまり問題にならなかった。これからだんだん町内会に加入しない人が増えてくると、何で俺たちは町内会に入っていない人の分まで面倒見なくてはいけないのだという議論になってくる可能性がある。そういうことも頭に入れて、この辺で公共財はやはり行政できちんと整備すべきだというふうに切り換えてもらわないと困るというのが、最初に提案した時に感じていた問題である。

【澁市会長】

当日配布資料№.１の意見書の案に進む。説明資料とほぼ同じことを言っている。事務局に短く整理してもらったが、また付け足したりしてこの案に至った。

・当日配布資料№.１読み上げ

説明資料の中で具体的なもっと細かなことは説明した。これはそれの重要なところを抜き出しただけである。質問や意見を求める。

【栗田副会長】

先ほどと同じところが引っかかる。重要なところは高田区にはというところから先だと思っているが、後ろのほうにくると全市の２．２億円になっている。ここに書かれているとおり、高田区で町内会が管理するＬＥＤ防犯灯数は全市の約１０パーセントであるのだから、２，２００万円というふうになると思う。そのように書いたほうがわかりやすいのではないか。

【澁市会長】

高田区のことだけ抜き出せということか。補助事業があった８年間で各区の町内会が幾ら負担したか正確な額がわからない。市の補助金も高田区にどれだけ支出されたかもわからない。市から出てきた資料は上越市全体の資料しかない。だから、上越市全体はこうなのだから、推計してよという言い方だが、資料がないのにあまり推計というのはよくないのではないかと私は思うのでこういう形になった。

【栗田副会長】

このことについては、前置きにも載っていて、町内会の負担総額は２．２億円以上の高額になったというふうにも載っているので、高田区のところについて、また同じことをこの推計のものも含めて書く必要がないというのであれば、書かなくてよいのではないか。削除してよいのではないかと私は思う。

【澁市会長】

上越市全体の町内会の負担金２．２億円をここに書く必要ないということか。ただ、これは意見書の中で強調するにはあってよいのではないか。あったら困るのか。困る理由を教えてほしい。

【栗田副会長】

単位が違う。

【澁市会長】

単位は違わない。上越市と高田区、高田区は上越市の一部だということである。

【冨田委員】

高田区にはというのが、主語みたいになっていて、そして２，２５４灯とあって、既に負担したのは何億円というのは、これは上越市の額である。高田区のことを述べているから、既に負担した額は、高田区では２．２億円の１０パーセントであれば、概算で２，２００万円。そういうことを栗田副会長は言われているのではないか。

【澁市会長】

違う。この文章は、高田区には２，２５４灯ある。これは全市の１０パーセントに当たると書くのか。

【冨田委員】

既に負担した２．２億円というのは、上越市全体の額を言っているのに頭が混乱する。高田区ではどのくらい負担されたのか。

【澁市会長】

それはわからない。概略は書けない。そういう余りにも推計の数字というのは、こういうものに書けないと思っている。

【杉本委員】

面倒なこと言わないで、既に負担した２．２億円のところに全市の町内会がと加え、全市の町内会が既に負担した２．２億円の費用というふうにすればよいではないか。この２．２億円は全市だということがわかればよいわけだから、具体的に上越市全体ではといれれば、それだけの話ではないか。

【澁市会長】

既に全市の町内会が負担した２．２億円とすればよいわけですね。ありがとうございます。非常に明確になった。

【山岸委員】

先ほど杉本委員から、新潟県は町内会への加入率がすごく高くほかでは少ない所もあるという発言があった。今後もしかしたら新潟県もそういうふうになっていくかもしれないということで、町内会に負担を結構いっぱいしてもらう、町内会の管理なので町内会が負担するというのは、今までは出来たのかもしれないが、公共財ということであれば、市が負担して当然だというような、先ほど杉本委員から説明があったいろいろな思いもここに盛り込んだほうがよいのではないかという気がした。

【澁市会長】

意見書の２番目の段落で言っている。防犯灯や地域住民の安全を守る重要な公共施設である。そのような施設である防犯灯の設置・交換費用の全額を町内に求めること、不合理は非常に強い言葉だと思う。あまりここで強烈な言葉を書くと、その影響、反響がちょっと心配されるのでこれ以上の強い言葉は、私は使わないほうがいいと思う。防犯灯が公共財か公共施設かどうかについても反対する人がいるので、私は通信制の経済学部を卒業したが、教科書をもう１回見直してみた。あと、財政学の教科書も見直してみたが、やはり公共財の定義というのは、ここに書いてあるように多くの人々が同時に消費することは可能で、かつ対価を徴収することは困難な財、サービスを公共財というと言っているから、やはり、防犯灯、家の中を照らすのだったら別であるが、外を照らしている防犯灯は公共施設と一般道路と同じではないか。

（柴田委員退席）

【冨田委員】

８年間補助金を出したわけだが、その公共云々という議論はあったと思う。その時に上越市はどういう見解を出したのか。

【澁市会長】

わかりません。

【冨田委員】

返事はなかったのか。それが今までの行政の考え方なので、上越市の考え方である。

【澁市会長】

今の質問に対して、私は上越市がどう考えたかという資料は持っていない。だから、答えられない。具体的な補助率、補助割合を見れば大体わかるではないか。上越市は３分の１、長岡市は５分の３、新潟市は２分の１、柏崎市は２分の１で、もちろん上限はある。それで、一番重要なことは電気料金が大幅に削減され、環境の負荷が軽減したと、恐らく市は環境負荷が軽減したと言っていると思う。そこに町内会の多大なる貢献があったなんて絶対言ってないはずである。市の職員がこの議事録を見たら怒るだろうが、事実だったのである。

この辺で採決してよいか。

【石黒係長】

事務局から訂正をお願いしたいところあるがよろしいか。下から二つ目のブロックで、長野市では全額（上限２．５万円）とあるが、全額と言っておきながら上限があるというのがわかりにくいので、１０分の１０にしたほうがいいと思うところと、同じブロックの最後、その他の県内他市では、費用の一部を町内会に補助しています。これだと、上越市以外の全部が補助しているように誤解を与える。実際、妙高市、糸魚川市は補助していないので、町内会に補助している市町村もあります程度にしたほうがよろしいのではないか。

【澁市会長】

意見書の案に合計３か所の修正が入った。杉本委員のご指摘の「既に全市の町内会が負担した」というところと、「長野市では１０分の１０」そして最後のところ、「その他の県内他市では費用の一部を町内会に補助しているところもあります。」というふうな形で、さらに精査して若干の文言の修正はあるかもしれないが、こういう形で意見書を最終文書にしたいと思う。

それでは、採決に移る。意見書の最終文書に賛成の方の挙手を求める。

（挙手１４名）

反対の方の挙手を求める。

（挙手２人）

この意見書は、採択された。若干文言の修正があると思うが、事務局にお願いして、最終版を作って担当課を通じて市に提出したいと思う。

以上で、次第２ 自主的な審議（１）ＬＥＤ防犯灯の設置補修を公費で行うことについてを終了する。

― 次第２自主的な審議（２）中高生の居場所づくりについて ―

【澁市会長】

次第２ 自主的な審議（２）中高生の居場所づくりについてに入る。

１２月２０日金曜日に関根学園高校のサードプレイスづくりの実証実験結果報告会があり、７人の委員から参加いただいた。

また、北城高校でも総合学習で２年生が勉強場所について調べ、１２月にその発

表会があったということで、資料を入手してもらったのであわせて事務局から説明願う。

【石黒係長】

１２月の関根学園高校の報告会の概要を説明する。実証実験は１０月２８日から１１月８日までの平日の９日間、ミュゼ雪小町の会議室を会場に実施された。テーブルの上に市内の企業から提供されたお菓子や飲み物、雑誌などを設置し、友達とおしゃべりする人や勉強する人など、1日平均１０人の利用があったという。利用者は関根学園高校の生徒を中心に上越高校や高田商業高校の生徒の利用もあった。また期間中、サポート団体によって、絵画や生け花などの体験教室も行われ、全体を通して利用者から大変好評だったとのことである。発表者からは、ぜひ高校生に投資して欲しいという言葉があった。なお、関根学園高校の取組をきっかけに、市ではミュゼ雪小町の受付け前の勉強スペースの席を少しだが増やしたことをお伝えする。

続いて、高田北城高校については、総合学習の発表会の案内が市宛にあり、一つの班の発表に教育の場のサードプレイスというタイトルがあったことから事務局で参加した。調査のきっかけは、上越市には学習施設が少ない、もっと充実した勉強をしたいと生徒さんが思ったことで、上越市の学習環境について調べたほか、文献調査やアンケート調査などが行われ、最終的な提案としては、市の施設を利用して学習の場を提供し、さらに、そこで小・中・高校生が大学生に勉強を教えてもらう仕組みづくりであった。上越教育大学の学生や直江津の無印良品などからも意見をいただいており、大学生からは協力の意向まで取り付けられていた。

二つの高校で偶然にサードプレイスがテーマになったということは、当事者世代のニーズとしては確実にあると言えると思う。両校の取組を高田区地域協議会の検討に活用し、高校生の思いが実を結ぶように地域協議会で応援すると高校生もうれしいと思う。

【澁市会長】

関根学園の報告会に参加した方の中から意見や感想を手短にお願いしたい。

【町委員】

思っていたのと少し違うなというのが正直な感想で、高田北城高校のほうは明確に勉強場所と言っているが、関根学園のほうはどちらかというと学生間の交流に重

きを置いているようなので、それも大事だと思うが、自分の提案とは少し違うかなというのは正直思った。

【山岸委員】

私も聞かせていただいて、町委員と同じ意見で、自分が考えていたイメージと少し違うかなというのが肌感覚としてある。１日平均１０人ということなので、この１０人を多く見たらいいのか、少なく見たらいいのか。

また、学校の広がりがもう少しあればいいなというふうに思ったのと、勉強とおしゃべりのスペースはある程度一緒で、それでも勉強はできたと生徒さんがおっしゃっていたが、親の目から見るとそれがどの程度なのかなというのが最初の印象だった。

【冨田委員】

前にも話したが、新潟市の万代市民会館でこういうことをやっている。私はいつも日曜日に行くのだが、日曜日は１０人から１５人くらい利用者がある。そこの管理者に聞いてみたところ、やはり高校生が中心で試験が近くなると５、６０人来るという。ミュゼ雪小町の掃除をする人にも話を聞いたところ、５階で結構勉強していて、高田高校、北城高校の学生が多いということを言われていた。先ほど山岸委員と町委員が心配していたが、私も心配している。上越タイムスに載っていたが、テーブルにお菓子があったりして勉強という感じではない。勉強と交流、同じ空間にこの二つはなかなか難しいなと思ったのが私の印象であった。

【澁市会長】

私がミュゼ雪小町に見に行った時、おしゃべりする人たちもいるし、違うテーブルで勉強している人もいた。そういうのがいいのではないか。ただ、ミュゼの受付前のスペースの方は、皆一生懸命勉強していた。席が増えたということは、非常によいことだと思う。

私が一つだけ印象に残ったのは、関根学園の生徒がぜひ高校生に投資してくださいと話していた。なかなかよいことを言うなと思ったが、これからこれをどういうふうに育てていくか。今いろいろと話したけれども、このテーマは防犯灯のＬＥＤ化の話と少し性格が違って、短期的に結論を出すというような性格の案件ではないと思う。我々は間接的に高校生の話を聞いた。あるいは、オーレンプラザの空きスペース

で一生懸命勉強している学生が大体１０人。暖房はしてあるが少し照明が暗いかなと感じたが、そういうことを市に対してもう少し改善したらどうかという要請をしたりすることを、彼らと一緒に考えていかなくてはいけないと思う。高校生だけではなくて、父兄、学校、市民の一般の方々と高校生をどのように助けていったらいいのかということを、これからじっくりと一緒に考えていかなくてはいけないと思うので、これを取り上げて一緒にやっていくという場合、全体会議の中で毎回話すということは無理だと思う。正副会長と事務局の話し合いで、部会を作ってやりたい人が定期的に、例えば月１回とか２か月に１回とか集まって、このテーマに限った話し合いをして、その話し合いから出てきた結論を全体にフィードバックするというやり方がよいのではないかという案があった。

もう一つは、部会を作らなくても、全体で必要に応じて話せばよいのではないかという意見もあったが、私は関係者と密接な関係を保っていくためには、関心のある人が部会を作って進めるのが非常によいのではないかと思っている。部会の場合、小回りがきくし、その中で大まかなことを決めて全体会議に報告して、全体会議の中で揉んで結論を出すというやり方ができると思う。

そこで、提案したいのは、このための部会を作って、メンバーは入りたい人に入ってもらって、月に１回、あるいは、２ヶ月に１回その話し合いをするというふうにしたいと思うが、部会を作ることについて質問、意見を伺いたい。女性委員が非常に興味があると思う。

【渡部委員】

知り合いの方と話をする機会があって、サードプレイスのテーマになったのでお話をしたところ、公民館のことをいろいろ教えてもらった。オーレンプラザは高田区の公民館で上越市の中央公民館である。公民館というのは、そもそも地域住民が気軽に集まって学習や交流ができる場である。それは大人だけではなくて、中高生も元々利用できる性格のものだということである。私はそこまでわかっていなかった。だから、特別に何か仕立てなくても、公民館なのだからできるのではないかと思った。実証実験はミュゼ雪小町だが、例えば、通学路ではない子たちが来づらいと上越タイムスの記事にも載っていたので、関根学園とか上越高校は駅が近いからミュゼ雪小町のほうがいいと思うし、ほかの高校とかはオーレンプラザでもよいのではないか。場

所がないから来れないというのもあると思うが、本当にたくさんの子たちが勉強しているということでいくと、学習と交流の両方が元々機能としてはある。やるべきとまでは書いてないとは思うが、オーレンプラザを上手に使ったらどうか。受付にずっと遅い時間まで職員がいるし、改築するとかではなくて、空いている時に生徒さんたちにスペースを開放してもよいのではないか。それはもともと行政の管理下なのでどうされるか。その費用をどうするとか、そういうことがあるが、貸館や集会所のようなイメージを持っていたがそうではなくて、人が集う場所で、そちらの機能のほうが公民館としては本来なんだということでいくと、オーレンプラザをうまく使うところで考えたほうがいいと思う。

【澁市会長】

どういう施設があるかは、また別途、この後で皆さんの意見を伺おうと思っていた。

【渡部委員】

名立の公民館は高校生が勉強の場で使っているそうだ。家の人が迎えに来るまで、図書スペースとかもあるそうで、すごく自由に使っているなという印象を受けたので、やはり公民館としてのオーレンプラザをもう一度考えることはあるかと思う。

【村田委員】

関根学園での発表会に参加した。高校生が主体的に物事を始めたというところに非常に感銘を受けた。そのきっかけは、学校の理事長先生や校長先生の高校生の主体性を伸ばしたいという最初の思いがあってのスタートだったと私は理解した。学校設置者が志を持って、主体的にこの地域で生きる、この地域をつくっていく、地域を愛する高校生を育てたいのだというところでスタートして、その心意気に共鳴した高校生たちが自ら動きをつくり出している。そして発表会もこういう形でされているということで、今後の期待としては、学校の枠を超えて高校生同士の繋がり、あるいは、世代を超えた繋がりというものに、多分向かっていくだろうと思う。１ヶ所にこだわらず、何ヶ所かでそれぞれの場所が特徴を持った、高校生とほかの世代、あるいは、高校生同士の場になっていくことを私は非常に期待している。大人はどういう役割を果たすかといえば、見守りというか、畑に種を植えて育っていくのを見守るのと同じで、そういった構えが非常に重要なのではないかと感じている。公民館として

のオーレンプラザでいろいろな取組がされているほか、地域の大人、子どもが自ら芸術の分野とか、スポーツの分野とか、人の繋がりをつくり出している上越市、あるいは、高田の状況に非常に好印象を持っている。

【澁市会長】

高校生自らが始めた動きをみんな見守って助けていこうというふうな感じになってきていると思う。全体がそうなってきているので、我々もそのように見守って助けるという形がいいかと思う。私は教育については素人なもので、やはり興味のある方が部会を作って、そこで話し合うのがよいかと思うが、これに特に反対の方はいるか。

【村田委員】

部会は必要ないと思う。高校生からの要請があった時に、その時点で動き出すというのがよいのではないかという印象を持つので、こちらのほうが先に作るというのは反対である。

【澁市会長】

承知した。そのほか意見あるか。

【町委員】

部会を作るともっと小回りがきいて、例えば当事者の学生たちと日中に話すようなことは、恐らく部会を作らないとできないような気もしていて、協議会のここの場だけとなると当事者の子たちが来れなかったりするので、そういう側面からも部会を作ったほうがよいのではないかと思う。

【冨田委員】

地域協議会は結構力がある。関根学園や上越高校とか市内にある高校に行って、「地域協議会の者だが、今サードプレイスについて検討していて、意見交換とか、ヒアリングというか、生徒の皆さんの声を聞きたい」ということでお願いすれば、生の声が拾えるのではないかと思う。従って、私は部会に賛成である。

【澁市会長】

前向きな意見が２人、そこまで必要ないのではないかという方が１人である。

【飯塚委員】

前回オーバードーズの話をしたが、会長に「反対ですね」と頭ごなしに言われたこ

とが非常にショックでずっと残っている。別に反対しているわけではない。高校生を応援する中で、心配な面もあったのでその話をした。新宿の東横の話を新聞やテレビで見たのでその話を出しただけで、高校生が一生懸命やっているのに反対するわけではない。

関根学園に発表を聞きに行って、よい会を作っているのだなと私はすごく賛成していた。こういう場を作るのはすごくよいことだが、非行に走る人が出る心配もあると話をしただけで反対したわけではない。

【澁市会長】

別に反対したというふうに理解していなくて、オーバードーズの話は非常に特殊な形だと思うので、歌舞伎町の東横にある話ですねと申し上げただけである。申し訳なかった。部会を作ることについて、飯塚委員いかがか。

【飯塚委員】

関根学園で発表した生徒たちには、長野県からわざわざこちらへ来て入学した人や留学したことがある人がいて、さらにサードプレイスのことにもすごく一生懸命に取り組んでいて驚いた。私が自分の子どもを育てた頃と今の高校生たちは全然違う考えだと感じた。自分の子どもたちは、親に甘えているというようなところがたくさんあったので、こうやって自立して自分たちで理事長や校長先生とうまく話をして、活動を立ち上げていく姿勢にとても感動した。私は応援したいと思う。

【澁市会長】

部会を作ったほうがよいということか。大体みんな部会を作ったらどうかという話になっているので、その方向で進みたいと思うが、特に駄目だという委員がいたら、意見を伺いたい。

（意見なし）

部会をつくった場合、入りたいという方の挙手を求める。後から加入することも可能である。

（挙手８人）

部会を作って検討していく方向で進めたいと思う。部会長だが、教育にずっと携わってこられた廣川副会長になっていただきたいと思うが、皆さん、同意いただけるか。

（よしの声）

渡部委員がおっしゃったように、オーレンプラザは元々は高田地区公民館である。今廃墟になっていると思うが、大手町の旧高田地区公民館で地域協議会を開いたことがある。公民館だが大きな講堂を作ったりして、小さな集まりとかはなかなかしにくいような施設になっているが、元々は公民館である。高田地区公民館と書いてあるはずだが、夜かなりの部屋が空いている。民間の施設を使うとなるとお金がかかると思うので、高田駅まで通った場合、高校がこちらに固まってあるので、通学路の間に結構空いてる施設があると思う。私の頭にあるのが、高田図書館もあるが、高田図書館の会議室がある。町委員が高田図書館の会議室も空いてる日は開放していると話していたと思う。オーレンプラザのフリースペースと会議室を空いている日に解放したらよいのではないかと思っている。

【栗田副会長】

部会でそれらについても話し合えばよいと思う。予定した時刻も過ぎているので、次に進めてもらったほうがよいかと思う。

【澁市会長】

以上で、次第２ 自主的な審議（２）中高生の居場所づくりについてを終了する。

― 次第２ 自主的な審議（３）自主的な審議のテーマについて ―

【澁市会長】

例の旧本町ふれあい館の譲渡の報告に関連して、諮問と報告について自主的審議事項とするかどうかについては、次回２月の定例会で議論したいと思う。当日配布資料№３は私が作った説明資料である。

前の議題に戻って、市が管理している施設のスペースを有効利用するというのは、私たちが市に要請する、あるいは、意見書を出すことはできると思う。ミュゼ雪小町の会議室が三つか四つあるが空いている。あと、市役所の南出張がある建物の３階の会議室や４階、５階にも空きスペースがある。そこを使ってもいいと思う。高校から高田駅までの通学路にある市の施設をもう少し有効利用するということを部会のほ

うで検討していただければと思っている。我々は、こういうスペースがあるから有効に利用するように考えてくださいと市に提案すれば、費用や管理人など後は市の仕事になるので地域協議会の仕事ではない。今日のこのテーマについての話し合いは閉めたいと思うがよろしいか。

【冨田委員】

ふれあい館は、１２月の市議会で承認されて契約になったのではないか。

【澁市会長】

どこのことか。

【冨田委員】

本町２丁目のふれあい館である。

【澁市会長】

私が言っているのは、雁木通りプラザの中にある会議室である。

【冨田委員】

その前にふれあい館のことを言っていた。

【澁市会長】

言っていない。

もう一つ予定していた議題は次回に繰り越すので、私が作った資料をよく読んできてください。

― 次第３ 事務連絡 ―

【澁市会長】

次第３ 事務連絡に入る。

事務局より説明を求める。

【小池副所長】

・当日配布資料№.４により説明

・今後の地域協議会等の日程連絡

第１０回地域協議会：２月１７日（月）１８：３０から

高田城址公園オーレンプラザ

第１１回地域協議会：３月１７日（月）１８：３０から

高田城址公園オーレンプラザ

【澁市会長】

・ただ今の説明について質問を求めるがなし

・全体を通して質問等を求めるがなし

・会議の閉会を宣言

９　問合せ先

総合政策部　地域政策課　南部まちづくりセンター

TEL:０２５-５２２-８８３１(直通)

E-mail:nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

１０　その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。